

会議・協議・相談等 記録簿

令和 4 年 11 月 7 日

- 会 議 名 前山小学校統合に伴う通学支援に係る路線バス説明会
- 日 時 令和 4 年 11 月 5 日（土）11:00～12:40
- 場 所 前山小学校 体育館
- 出 席 者 ふるさと定住促進課 藤浦課長、足立係長
教育総務課 足立次長、船越係長、小田、畑中
前山小学校保護者、認定こども園前山小学校区保護者（約 45 名）

●内 容 （保：保護者、教：教育総務課、ふ：ふるさと定住促進課）

【意見等】

- ・教育委員会は市の公共交通充実をどの程度考慮しないといけない立場なのか。路線バスとなる場合の子どもの負担を考えたことがあるのか。もっと子どもの負担をいかに軽くするかという視点で考えているものだと思っていた。（保）
- 言われていように、教育委員会と公共交通担当部署で立場は若干違うが、こどもの安全を第一に考えている。それを確保したうえでの路線バスの提案を今回は行っている。専用バスと違い、不特定多数の乗客があるのは確かだが、それを除けば走行上は同じように安全に送迎ができると考えている。（教）
- 「安全」の確保は当たり前のことである。それを今更持ち出されても意味がない。（保）
- ・社会実験に子どもが巻き込まれているようにしか見えない。（保）
- ・昔は路線バスが運行されていたが、採算がとれないから撤退した。今回の資料に予算や収支見込みなどが一切ない。バスの運賃も記載されていない。民間でこのような提案をすると笑われる。（保）
- 過去に路線バスが撤退しているのは確かである。しかし、高齢化が進む中で自家用車だけに頼らなくてもいい交通環境にすることも必要で、赤字になることも確かに予想されるが、市の施策として公共交通の充実を検討している。運賃は現在調整中で、始発から終点まで乗ると 1,000 円程度になることが予想される。実際にはバス事業者が認可を受ける。（ふ）
- ・市が施策として進めてきたデマンドタクシーとのすみ分けはどう考えているのか。（保）
- 市の交通施策の考え方としては、基幹交通としては電車と路線バスを前提としている。地域を越えて移動したり、もしくは遠方へ出かける場合に使う交通としているのが、電車と路線バス、それを補うのがデマンドタクシーとしている。（ふ）
- ・一度専用スクールバスに決定したのにそれが難しいということなのか。また、子どもの通学のことと地域交通を並行して考えるのはとても負担である。（保）
- 一度専用スクールバスにするという結論を地域部会で出されているが、現在再度検討いただいているという状況であり、年内には結論を出したいと考えている。路線バスについて不安に思われていることを解消できたらと考えている。（教）
- ・バス停が道の反対側にある場合は道を横断しないといけないのか。（保）
- バス停の標識が片側にしかない場所もあるが、道路の進行方向左側から乗車いただくの

が原則である。(ふ)

- ・不特定多数が乗る場合は現在のコロナ禍のような環境では感染リスクがあり、感染経路の追跡もできない。(保)
- 不特定多数が乗車することでそのようなリスクがあるのは確かである。ただし、車内の密度を下げたり、感染対策物資を設置するなどリスクを下げる対応はしていく予定である。(ふ)
- ・赤字路線の場合、将来にわたり路線が維持される保証はないと思う。バス業者が撤退した場合、保護者が再度バスを検討する必要が生じ、子どもの負担も大きくなるのではないか。また、今後さらに市島地域の統合が進むことも予想されるがその点に関してはどのように考えているのか。(保)
- 赤字も予想されるが、今後高校生が通学で使用するなど需要増が見込めれば更なる充実も期待できる。統合が今後も進んだ場合は他の校区の交通手段等も考慮して検討していく予定である。(ふ)
- 社会実験の結果にもよるが、維持すべき路線であると判断すればその後も維持していきたいと考えている。(ふ)
- ・路線バスを運行すること自体は反対をしていない。路線バスとは別に専用スクールバスを運行できないか。(保)
- 費用の持ち出すのはよくないかもしれないが、同じ時間帯に路線バスと専用スクールバスの両方を走らせるのは避けたいと考えている。(教)
- 公共交通側としても専用スクールバスが走っている時間帯に路線バスを走らせるのは難しいと考えている。(ふ)
- ・社会実験で需要が多ければ運行可能であるとのことだが、乗客が増えれば児童が座れないということにならないか。(保)
- ・試乗会に参加したが、小学5年生の子どもではつり革にはぎりぎり手が届くような状態であったので、あの車両のままでは乗車は難しいと感じた。(保)
- ・電車の時間に合わせた運行であるなら、発車時刻が厳守となると思うが、低学年の児童は歩くのが遅いので降車時に遅れないか心配である。また、降車時に遅れたがために、電車の時刻にバスが間に合わないという事態も心配している。(保)
- ・仮に年内に児童の交通手段を路線バスと決めたとして、社会実験が終了し、乗車人数が少なくて採算がとれないから結局運行できないというスケジュール的に矛盾した話にならないか。(保)
- 統合準備委員会での通学支援の決定は年内としているが、若干の猶予もある。社会実験について地域公共交通活性化協議会では、新たな路線が組めるかということ判断するために協議がされており、学校の統合とは別で動いているものである。社会実験の結果を見て判断するのは地域公共交通活性化協議会であるので、絶対ということは言えないが、通学で利用いただくのであれば、それは必要な路線であるので、維持していく。ただし、一般利用のみで需要があると見込まれるかどうかは社会実験が終了しないとわからない。(ふ)
- ・専用スクールバスの場合は行き先が学校ということが明確なので、乗車さえすれば到着することが予想されるが、路線バスの場合は乗り過ごしてしまった場合が心配である。

- また、地域の人が添乗員として同乗しても帰りの便がない。(保)
- バス会社も児童の通学を担っているということを意識して運行するので心配されているようなことには配慮はしてもらえると考えている。(ふ)
- 便数に関しては、需要と供給という観点からも当初からたくさんの便数を設けるのは難しい。(ふ)
- ・バス停までの途中で児童がけがをしたときや遅刻した場合、路線バスは発車してしまうと思うが、その対策はあるのか。(保)
- 発車時間になってもバス停に向かっている人がいればある程度は柔軟に対応する予定である。ただし明らかに遅刻している場合は保護者の送迎で対応していただくことになる。専用スクールバスでも同じである。(ふ)
- ・専用スクールバスでも同じという発言をされているが、例えば認定こども園のバスは各地域の公民館を中心に回っているので安心できる。資料に書かれているような国道の道沿いに児童を待たせるのがどれだけ危険か理解しているのか。(保)
- 専用スクールバスになったとしても時間的な制約もあり、全自治会は回れず、全てのバス停が公民館になるわけではないという事はご留意願いたい。(教)
- ・路線バスを走らせるための需要を確保するために子どもたちを巻き込もうということが透けて見えている。(保)
 - ・自分の子どもは知的障害を持っているため、予想できない動きをすることもある。あまりにも子どもの視点が無さすぎる。(保)
 - ・車両に添乗員が乗らないのは乗り過ごしなどが不安である。運転手以外に児童の人数等を把握した人を同乗してもらえないのか。(保)
- 専用スクールバスの場合でも、逐一その日に乗車しない児童を運転手に連絡しているわけではない。路線バスの場合は運転手に児童と思われる乗客が降車できているか確認するなどの配慮はしたいと考えている。(ふ)
- ・認定こども園では園に到着し機械にタッチすることで園児が無事到着したことが確認できるシステムが導入されている。専用スクールバスならそのようなこともできると思う。路線バスなら難しいと思うし、いつ危険な事案が生じたのかがわからない。(保)
- 参考として青垣小学校のスクールバスではバス車庫で最後の確認をしている。ただし、乗降人数の確認までは実施できていない。(教)
- ・路線バスの要望がどれぐらいあるのかも示されていない中で全てが机上の話になっている。説明に信用性がない。結論としては専用スクールバスがいい。(保)
- 市島地域には路線バスがなく、直接中心部へ行く交通手段がない状況である。議会などでも指摘があり、課題とされていた。ただし、デマンドタクシーは地域内の移動を前提としている。電車では乗り継ぎが生じることから、中心部の医療センターまで行くことができる路線バスを現在提案しているところである。(ふ)
- ・朝の時間はスクールバスを運行し、他の時間帯は路線バスとしてその車両を使用してほしい。そうすれば課外授業にもそのバスを使用できる。(保)
- 路線バスの場合原則バス停にいる一般客を乗せなければならない。また、専用スクールバスを路線バスに転用できるのは他の公共交通機関がないことが前提と考える。現在丹波市にはデマンドタクシーがあり、公共交通空白地はないため、それはできない。(ふ)

- ・大型のバス車両が朝の交通量の多い時間帯に狭い地域内を走る事が危険ではないかと心配している。(ふ)
- ルートに関しては警察とも協議をしており、今後も警察や道路管理者とも連携をとっていきたいと考えている。今後の運行の際には通行にご配慮いただけたら助かる。(ふ)
- ・路線バスに乗車した児童がバスの中で怖い思いをした場合どう対応するのか。専用スクールバスであれば、ある程度は学校の教育の中で対応することもできると思うが、路線バスではどうなるのか。例えば痴漢にあった場合などは言えない児童もいる。今は前山小学校の先生にしっかり教育をしてもらっており、専用スクールバスなら学校に情報が入りやすいのでいろいろな対応はしてもらえと思う。しかし、路線バスにすることでそれらが蔑ろにされている気がする。子どもにとってメリットは何もない。(保)
- 安全面の心配をされているのは理解している。例えば警察官による見守りなども考えられる。乗客の多くが危険な人ではないと思うし、路線バスは危険な乗り物であると思われるのは公共交通を推進する立場としても本意ではない。また、地域の方が一緒に乗ることで地域の方に見守られることになり、それが児童の安全につながる。(ふ)
- ・同乗などの見守りを言われているが、前山方面とは逆方向のバスのため乗る人はいないのではないか。わざわざ竹田小学校まで乗って丹波医療センターまでいくことは考えにくい。その場しのぎの回答が多すぎる。(保)
- 確かに折り返しが生じてしまうが、料金は高くないように調整はしていく予定である。下校時は医療センターから前山まで乗るので、前山地域の人が児童の見守りはすることができる。(ふ)
- 石原で折り返すよりも電車で乗り継いでいくほうが早く市の中心部に到着する可能性もあるが、高齢の方で乗り換えをしんどく感じる人のためにも路線バスを走らせることは意義があると思う。(ふ)

前山小学校統合に伴う通学支援に係る路線バス説明会 次第

日時：令和4年11月5日（土）11：15～

場所：前山小学校 体育館

1. 開 会

2. あいさつ

3. これまでの経過について（教育総務課）

4. 統合後の通学支援について（ふるさと定住促進課）

5. 質疑応答

6. そ の 他

7. 閉 会

これまでの市島地域市立小学校統合準備委員会 竹田・前山地域部会の経過と、
丹波市の公共交通施策の取り組み（時系列）

5月
30日

統合準備委員会、竹田・前山地域部会
第5回 竹田・前山地域部会 竹田小学校と前山小学校の統合の時期及び場所については、令和6年4月に竹田小学校で開校することが決定

6月

丹波市（公共交通）
竹田小学校での開校を受けて、通学支援をバスで行う場合には、まず路線バス利用を提案することを決定。通学ルートについて交通事業者等と調整を開始

24日

統合準備委員会
第6回 市島地域市立小学校統合準備委員会 竹田・前山地域部会から提案のあった統合時期及び場所を承認

7月

8日

統合準備委員会、竹田・前山地域部会	丹波市（公共交通）
第6回竹田・前山地域部会 通学方法の協議	第6回竹田・前山地域部会 路線バス通学の場合のルートや乗降車場所、時刻表について提案 ※提案した区間： 前山ふれあいセンター⇄竹田小学校間 路線延長については、交通事業者等と調整中であり、公表していない。

26日

統合準備委員会、竹田・前山地域部会	丹波市（公共交通）
第7回竹田・前山地域部会 通学方法は専用スクールバスを運行することで今後協議を進めることが決定	第7回竹田・前山地域部会 スクールバスとの比較による路線バス通学について説明 委員の質問に対し、通学ルートの市中心部への延伸に対しては、現時点で調整中であり、「一定の（乗車）需要が見込めるのであれば次の展開もあり得る。」と回答するにとどまる。

8月
9日

「通学方法はスクールバス」との新聞報道

丹波市（公共交通）

第1回丹波市地域公共交通会議 ※1

周辺地域から医療センターまでの移動手段の社会実験について協議、

- ・移動手段に路線バスを使うこと
- ・小学校の通学ルートを、医療センターまでの直行便路線につなげる等の提案が委員からある。

⇒路線バスによる社会実験の実施に向けて調整に入ることを決定。

※1 地域における公共交通の利用増進について、交通事業者や市民代表、有識者等で組織して協議する場

「市島から医療センターまで路線バスで社会実験」との新聞報道

丹波市（公共交通）

- ・社会実験ルート（＝将来のルート候補）の詳細を関係者と調整に入る。
- ・新聞報道後の関係者からの問い合わせに対応（自治振興会等に事実関係の報告）

9月
13日

統合準備委員会

第7回市島地域市立小学校統合準備委員会

- ・地域部会から統合後の通学支援については、「専用スクールバス」とすることを提案

⇒

「交通会議」の報道を受けて委員から意見があり、市島から市中心部までの社会実験が路線バスで行われることになったため、通学ルートの延伸が可能であることから、それらを考慮して竹田・前山地域部会において通学手段を再度検討することとなる。

21日

統合準備委員会、竹田・前山地域部会

第9回竹田・前山地域部会
通学手段の再協議

路線バスの試乗会を実施し、その中の意見を参考に協議することが決定

丹波市（公共交通）

第9回竹田・前山地域部会

これまで提案していた通学ルートを延伸し、市島～春日地域を経由して医療センターまで行く社会実験のイメージ案を提示

10月
15、16日

丹波市（公共交通）
路線バス試乗会を実施 前山小学校・こども園（前山地区）保護者、児童、園児 自治振興会役員、見守り隊、民生児童委員ら59名参加 2日間計4回 前山ふれあいセンターから竹田小学校までの通学ルートを運行し、路線バスの乗り方の説明等を行い、参加者からの質問に答える。 アンケート実施

18日

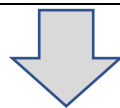
統合準備委員会、竹田・前山地域部会
第10回 竹田・前山地域部会 前山小学校保護者、認定こども園あいいくの丘保護者を対象に、路線バス通学に関する説明会を開催することが決定

28日

丹波市（公共交通）
第2回丹波市地域公共交通会議 周辺地域から医療センターまでの移動手段の社会実験の実施を決定 ・ルート案；前山ふれあいセンター発 竹田小学校→石原→市島駅→多利→黒井駅等経由 丹波医療センター着 ・実験期間；12月2日～令和5年1月31日 ・運行車両；中型または小型車両 ※現在認可申請手続き中

11月
5日

統合準備委員会、竹田・前山地域部会	丹波市（公共交通）
前山小学校統合に伴う通学支援に係る路線バス説明会（本日）	



竹田・前山地域部会の決定や市島地域市立小学校統合準備委員会の承認を経て、年内には通学支援の形態を決定します。

《前山校区 保護者のみなさまへ》

統合小学校への路線バスによる通学支援について

丹波市ふるさと創造部ふるさと定住促進課

路線バス通学の提案にあたって

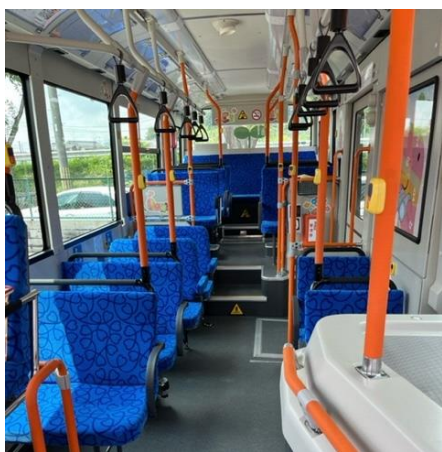
丹波市内では、現在小中学校の統合協議が行われており、通学環境が変わる児童の通学支援に際して、バス路線のある校区あるいは、路線バス運行エリアの拡大が可能な地域は、まず路線バスを活用することを原則としています。

竹田～前山地域においては、通学環境が変わる児童の人数や、市の公共交通充実の視点から路線バスの活用が可能であるので、通学方法として提案させていただきます。

丹波市による路線バス通学としては、現在大路小学校の一部地域で使われており、また令和5年4月に統合する山南中学校で、現和田中学校区からの通学に使用される予定です。



運行車両



写真は現在市内を運行中の中型バス車内

- 大型バス
定員約 75 人、通学利用のために座席追加し、着席可能人数は 51 人程度の見込みです。
(※車両メーカーにより若干異なります。)
- シートベルトは着用しません。
- 一部区間で児童が立席になる場合があります。
安下～竹田小学校の区間(約 1.5 km)
令和8年度以降、立席はなくなる見込みです。
- スロープを展開して車イスの方でも乗降できます。
(乗車中は座席をはねあげてスペース確保)

運行事業者 株式会社ウイング神姫(丹波市内運行バス路線事業者)

運行ルート・乗降車バス停 ※別紙地図のとおり

運行時間

- 平日 朝（登校）1便、夕（下校）2便 ※別紙時刻表のとおり
- 1便区間距離約 5.5 km、運行想定時間約 10 分
- 土日祝日は運休
※スクールバスの場合、朝も往復送迎になり、地域によってはバスの乗車時間が朝早くなります。

運行中の安全管理

【スクールバス通学との共通項】

- 乗降場所での児童の見守りは、保護者や地域の方でお願いします。
- 乗降場所の整備が必要な場合は、各地域で対応になります。
- 車両への添乗員の乗車はありません。
- 時間通りに出発します。

【路線バス通学の場合】

- 「十市」地区の児童は、「十市バス停」ではなく、乗車スペースの広い「安下バス停」で乗車予定です。（※竹田小校区の安下地区の児童は徒歩通学になります。）
- 路線バス車両には、緊急時の減速停車システムや、車外へのSOS表示システムを搭載しています。
- 児童の急な体調不良等に対しては、運行事業者と学校との間で連絡体制を整備します。

統合小学校での乗降車

- 安全に乗降できるスペースを設置できるよう検討します。
- 小学校前での乗降時間はしっかり確保します。
- 車内で落し物や忘れ物等が後から見つかった場合に対応できるよう、運行事業者と学校間で連絡体制を整備します。

学校行事への対応

- 学校の長期休業中も運行します。
- 運動会、音楽会等休日行事の際は臨時便運行をします。
- 課外授業での移動は市公用バスや貸切バスを使用します。（従来通り）

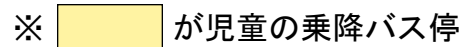
乗車運賃

- 通学児童は交通系 IC カード（NicoPa）定期を携帯し、乗車時と降車時に読み込みを行います。
- 乗車運賃の保護者負担はありません。（市教委補助）

- カードを紛失した場合は学校を通じて市教委より再発行手続きを行います。
(※再発行手数料【520 円】は保護者負担となります。再発行までの間は代替の乗車証を渡します。)
- 急なカードの紛失や忘れた場合も、乗降車は可能です。

その他

- バス路線を延伸することで、市中心部まで乗り換えなしで行くことができる公共交通機関を市島地域で運行できるようになります。



前山～竹田間バス通学想定ルート

バス停位置	区間距離 km	トータル km	想定時間 分		想定ダイヤ					
					朝↓	朝臨時↓	夕1↑	↓	夕2↑	臨時↑
					始		⇒	↓	終	
前山ふれあいセンター		0.00		0:00	7:32	9:32	15:11	15:35	16:11	12:41
	0.44		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
谷上		0.44		0:01	7:33	9:33	15:10	15:36	16:10	12:40
	0.71		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
前山郵便局前(今中)		1.15		0:02	7:34	9:34	15:09	15:37	16:09	12:39
	0.77		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
宮ノ下		1.92		0:03	7:35	9:35	15:08	15:38	16:08	12:38
	0.37		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
段宿		2.29		0:04	7:36	9:36	15:07	15:39	16:07	12:37
	0.45		0:02		↓	↓	↑	↓	↑	↑
八日市		2.74		0:06	7:38	9:38	15:05	15:41	16:05	12:35
	0.70		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
十市		3.44		0:07	7:39	9:39	15:04	15:42	16:04	12:34
	0.30		0:00		↓	↓	↑	↓	↑	↑
安下		3.74		0:07	7:39	9:39	15:04	15:42	16:04	12:34
	0.54		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
大森		4.28		0:08	7:40	9:40	15:03	15:43	16:03	12:33
	0.30		0:00		↓	↓	↑	↓	↑	↑
新道具		4.58		0:08	7:40	9:40	15:03	15:43	16:03	12:33
	0.33		0:01		↓	↓	↑	↓	↑	↑
丹波竹田駅		4.90		0:09	7:41	9:41	15:02	15:44	16:02	12:32
	0.56		0:02		↓	↓	↑	↓	↑	↑
竹田小学校		5.46	0:02	0:13	7:43	9:43	15:00	15:46	16:00	12:30

◆ 前山～竹田小学校間バス路線 乗車場所候補地位置予定写真

01 前山ふれあいセンター



02 谷上



03 前山郵便局前



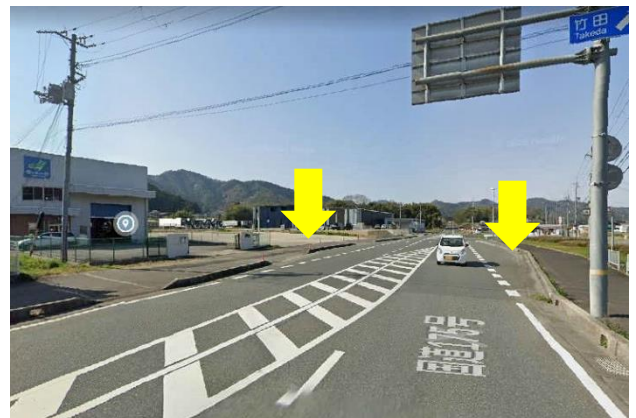
04 宮ノ下



05 段宿



06 八日市



07 安下



12-1 竹田小学校（登校時）



12-2 竹田小学校（下校時）

